

# 岡山国際交流ヴィラによる外国人の地方旅行誘致と 地域の受け入れ態勢

富 川 久 美 子

(受付 2019年10月31日)

## 1. はじめに

訪日外国人が急増する中、観光庁は更なる増加を図っており、そのための受け入れ態勢整備が急務となっている。宿泊施設不足に対しては、その解消と多様なニーズに合わせた施設の提供が図られている（観光庁、2016）。しかし、オーバーツーリズムの問題が顕在化した都市や観光地もある。この対策としても、地方における宿泊施設の整備が求められる。一方で地方の自治体では、国の指針を受けてインバウンド観光の取り込みを観光政策に掲げるところが増えた。しかし、客のニーズが測れず、また宿泊施設も揃っていない中で、具体策の策定が多くの地域で課題となっている<sup>1)</sup>。このため、外国人の地方旅行ニーズや宿泊施設に対する志向を解明し、地域への観光効果が期待できる宿泊施設の整備と地域における外国人旅行者の受け入れ態勢の検討が必要とされる。

外国人の地方旅行ニーズに関しては、日本政府観光局の調査結果があり、外国人の地方旅行時に体験率が高いのは、特産物の飲食や自然景勝地観光、伝統的な宿泊施設での宿泊などであり、特に欧米系の旅行者は、地元の人との交流、徒歩か自転車による地域探索の体験率が高いことが報告されている（日本政府観光局、2016）。また、訪日旅行やグリーン・ツーリズムに興味をもつ外国人を対象にした調査では、日本のファームステイを

---

1) 広島県内の事例では、廿日市市や北広島町、海田町などがある。

体験したいと回答した者が 7 割を占め、滞在中に日本の農家や文化を知ることや、農家との交流が期待されている（綜研情報工芸, 2016）。しかし、ファームステイの課題としてコミュニケーションへの不安が挙げられている。このような外国人旅行者を対象とした調査に対し、受け入れ側の農家を対象とした研究に蔵本他（2018）がある。彼らは、農家民宿・民泊を中心とするグリーン・ツーリズムの推進地では、訪日個人旅行者が気軽に訪れられる受け入れ態勢の構築にはまだ時間がかかるとし、外国人の志向や農村振興の観点からみたグリーン・ツーリズムの意義に関する研究の不足を指摘する。宿泊施設による地域への効果について論じた研究では、インバウンドに関する研究はみられないが、富川（2010）が農村地域における公共の小規模宿泊施設が交流の場として地域に社会効果をもたらす事例を提示し、石川（2012）が長野県善光寺前においても小規模宿泊施設が地域社会の交流の場としての役割を指摘している。このように、宿泊施設による地域への社会効果は確認できるが、その一方で、インバウンド観光による経済効果は、疑問視されている（Dwyer, L. & Forsyth, P., 1993; Shi, H., 2012）。これらの研究により、地方旅行は特に欧米系の外国人に一定のニーズがあり、滞在中に地域の文化や自然に触れること、伝統的な宿に泊まること、また住民との交流が望まれていることが分かる。しかし、農家に泊まることには会話への不安があることも確認できる。また、宿泊施設による地域への社会効果が期待できるものの、地方では、特に個人旅行をする外国人の誘致が課題となっている。

このような中で、既に1980年代末から外国人向け宿泊施設によって過疎地に多くの外国人を誘致した「岡山国際交流ヴィラ」事業がある。本研究は、この事例を基に、外国人旅行者誘致に至った経緯と宿泊者の滞在志向を明らかにし、宿泊施設による地域への観光効果と受け入れ態勢づくりのあり方を考察する。このため、まず、「岡山国際交流ヴィラ」設立の経緯や運営の実態、宿泊者の滞在志向を概観し、次に、現存する 2 軒のヴィラについて、地域の観光の実態を概観し、ヴィラと地域との関係および宿泊者

富川：岡山国際交流ヴィラによる外国人の地方旅行誘致と地域の受け入れ態勢  
にとっての滞在の魅力を解明する。調査は、関連資料の他、主に2018年8  
月から2019年3月に行なった聞き取りに基づく<sup>2)</sup>。近年の宿泊者の志向は、  
ウェブ上の口コミからデータを収集し、これをテキストマイニングの手法  
を用いて分析する。

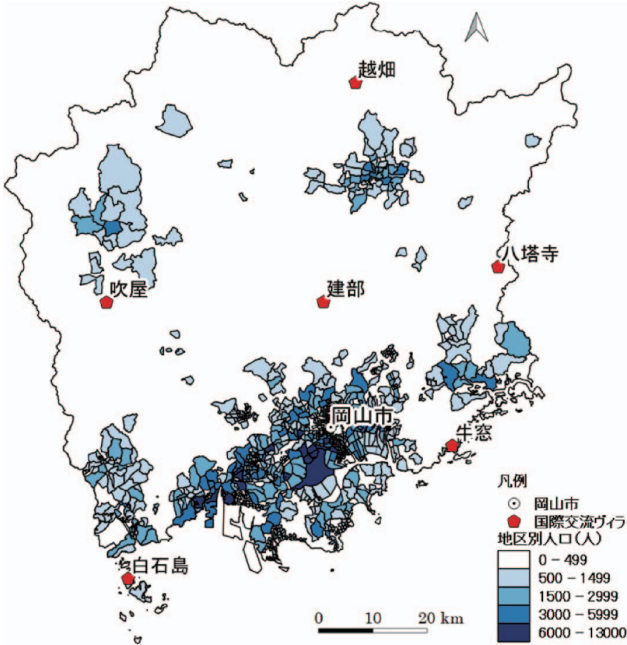
## 2. 国際交流ヴィラ

### (1) 事業目的と設立の経緯

「岡山国際交流ヴィラ」は、岡山県が「外国人観光客等が気軽に宿泊でき  
るとともに、外国人と地域住民がヴィラを拠点に交流し国際理解と親善を  
深めること、また外国人に地域の固有の生活文化・伝統等を体験してもら  
うことを目的として設置」したものである<sup>3)</sup>。当時の知事が国際交流を推  
進する中で本事業はその一環としての事業であった。最初の国際交流ヴィ  
ラが1988年5月、現在の高梁市にある吹屋地区に「吹屋ヴィラ」、同年7月  
に鏡野町越畑に「越畑ヴィラ」、同年10月に現在の瀬戸内市牛窓に「牛窓  
ヴィラ」が開設された。続いて翌1989年4月に現在の備前市吉永町に「八  
塔寺ヴィラ」、1990年8月に現在の岡山市にある建部地区に「建部ヴィ  
ラ」、1991年4月に笠岡市の白石島に「白石島ヴィラ」と、県内に6軒の国  
際交流ヴィラが整備された<sup>4)</sup>。2000年当時の岡山県の地区別人口と各ヴィ  
ラの立地を図1に示した。国際交流ヴィラが立地する集落は、白石島を除  
く5軒が人口500人未満の過疎集落である。開設された各ヴィラの施設と立  
地の特徴は、表1のとおりである。ヴィラは全て収容人数10名前後の小規  
模施設であるが、建物は日本の木造家屋を基本に設計された斬新なデザイ  
ンや茅葺屋根など、それぞれの地域の特徴を活かした個性的な建物である。

- 2) 実態調査及び聞き取りは、白石島、牛窓、八塔寺において、各ヴィラの管理人  
や滞在者、地域の住民、また岡山県国際団体協議会及び笠岡市と備前市の関係者  
を対象に実施し、その後の追跡調査としてメールでの問い合わせや資料収集も  
行った。
- 3) 岡山県国際課の国際交流ヴィラ運営協議会（2005年2月）の資料に基づく。
- 4) 以上、岡山県国際団体協議会での聞き取りによる。

図 1 岡山県の地区別人口と国際交流ヴィラの位置



\* 地区別人口は、2000年の国勢調査による。

表 1 国際交流ヴィラの特徴

ヴィラ名	客 室	建築物の特徴	アクセス (開設当時の 岡山から)	地域の観光
越畑	6 畳二間	茅葺屋根の農家家屋を 改修，囲炉裏	JR70分＋ バス 1 時間	山麓の農村景 観，散策
吹屋	洋室 4，和室 1	土蔵の醤油蔵を復元	JR50分＋ バス 1 時間	古い町並み， 坑道
建部	洋室 5（シャワー・ トイレ付）	斬新なデザイン，温泉 施設併設	JR50分＋ バス 1 時間	川釣り，社寺 散策
牛窓	洋室 5（バス・トイレ 付，海眺望）	木組みガラス張り，多 目的ホールファサード	JR25分＋ バス25分	古い港町，マ リンスポーツ
白石島	和室 1，洋室 4（海 眺望）	モダンなデザイン，共 用デッキ	JR45分＋ 船25分	海水浴場，ハ イキング
八塔寺	和室四間	茅葺屋根の農家家屋 囲炉裏，五右衛門風呂	JR35分＋ バス30分	農村景観，ハ イキング

富川：岡山国際交流ヴィラによる外国人の地方旅行誘致と地域の受け入れ態勢  
各ヴィラには地域住民との交流ができるホールが備わり、イベント会場として利用されていた<sup>5)</sup>。県による潤沢な資金が投入されたデザイン重視の建築物は、施設の維持管理や実用性への配慮が欠けていたとされる<sup>6)</sup>。

全6軒の国際交流ヴィラが掲載された当初の「Okayama International Villa Group」のパンフレットには、「1988年、外国の皆さんにくつろいだ田舎の暮らしを体験していただける施設として、初の国際交流ヴィラがオープン。(略)都会の喧騒に疲れたら美しい自然に包まれた国際交流ヴィラをノックして下さい。そこには人々との心温まるふれあいとリラックスできる日本の休日が待っています。」とある。つまり、国際交流ヴィラは外国人の地方旅行を促し、滞在地域の住民との交流の場となることが期待されていた。その後、『広報かさおか』(1990年6月)には「国際交流ヴィラによって、地元の人たちも外国人と接する機会が増え、外国人を身近な存在として捉えるようになり、外国人に対する意識が以前の「敬遠」から「好感」に変化した。」とあり、事業目的の達成が伺える。

## (2) 経営と誘客

国際交流ヴィラの予約受付や会員管理、広報宣伝などは県の事務局「岡山国際交流ヴィラグループ」が担い、施設の管理運営は各市町に委託された。管理人はヴィラに常駐せず、客への対応は鍵の受け渡しと集金程度で、館内の設備や周辺施設の説明は英文の案内で対応していた。ヴィラの宿泊利用は会員制で外国人に限定され、日本人はその同伴者のみとされた。当初の会費は2年間で500円、宿泊料金は一般会員が2,500円、留学生会員が2,000円など、低廉な料金設定にヴィラによっては割安の1棟貸切りも可能とした。1回のヴィラの滞在は最長1週間とされ、10回泊ると1泊分が無料となる会員特典もあったことから複数のヴィラを利用する者が多

---

5) 岡山県国際団体協議会での聞き取り及び設立当初のパンフレットによる。

6) 白石ヴィラの元管理人への聞き取りによる。維持管理の難しさ、使い勝手の悪さはどこのヴィラでも問題になっていたとする。

かった<sup>7)</sup>。

広報活動として「岡山国際交流ヴィラグループ」が大使館などの在外公館などに案内を送付していたことから、当初は日本在住者の利用が多かった。広報活動はその他、ウェルカムイン予約センターにパンフレットを送付するなど、JNTO（日本政府観光局）を通じた PR 活動、インターネットによる情報提供、英語タウンページの広告などであった。また、会員にニュースレターやグリーティングカードを送付し、リピーターの確保に繋げていた<sup>8)</sup>。海外では複数の旅行雑誌やガイドブックに掲載されるようになり、The New York Times（1992年10月18日）には「Bargain Lodgings in Rural Japan（日本の田舎に格安滞在）」の見出しで国際交流ヴィラの記事が掲載された。記事には、6軒のヴィラが田舎の havens と表現され、「日本では地方に滞在したくても、数か月前から宿が予約で満室になっており、1、2週間しか泊まらない外国人旅行者には予約もとれず、また宿泊料が高額である。その中で岡山県内にある6軒の国際交流ヴィラは、自然が豊かな田舎にある日本古来の建築を活かした宿泊施設である上、格安に泊まれる。伝統的な和室に泊まることができるが、これが難しい者には洋室も用意されている。また、日本では外食が驚くほど高い中で各ヴィラには自炊施設が完備してある。（筆者訳）」とあり、茅葺屋根の集落の写真と共に八塔寺ヴィラの様子が詳しく掲載されている。この記事から、当時の外国人旅行者にとって地方旅行が難しい中で如何に国際交流ヴィラが魅力的であったかが伺える。また、国際交流ヴィラの誘客には、ガイドブック Frommer's と Lonely Planet による影響が大きいと見られる。『Frommer's Japan』（2009年）には、ほぼ1頁を割いて、岡山国際交流ヴィラの設立に至った背景、各ヴィラの特徴や注意点などが書かれ、宿泊料金（2,500円）が同等の宿泊施設の半額程度とある（実際には2004年以降3,500円）。

7) 岡山県国際団体協議会、白石ヴィラの元管理人などへの聞き取りによる。

8) 以上、岡山県国際団体協議会、白石ヴィラの元管理人などへの聞き取りによる。

富川：岡山国際交流ヴィラによる外国人の地方旅行誘致と地域の受け入れ態勢

Lonely Planet シリーズの『Japan』（2009年）には、「八塔寺ヴィラ」と「白石島ヴィラ」が紹介されており、県の事業が予算削減のために廃止されたが引き続き宿泊できる（3,500円）との説明もある。1999年冬の時点で国際交流ヴィラの会員は、1,336人、そのうち69%（916人）を日本在住者が占めていた。1999年7月から9月に実施されたアンケート調査によると、利用者の国籍はオセアニアを含む欧米の英語圏が外国人利用者の80%以上を占めていた<sup>9)</sup>。外国人の利用者が国際交流ヴィラを知った理由として最も多いのが口コミの62%であり、次に海外のガイドブックが25.5%、インターネットが22%となっている。宿泊者が「国際交流ヴィラ」を選んだ理由として、外国人の72%がロケーションを挙げており、宿泊料金が安いことが53%、周辺観光の良さが49%である<sup>10)</sup>。新聞やガイドブックで安いことが強調されていたが、それ以上にヴィラが海に近いことや静かな環境である立地が魅力とされていたことが伺える。その他、アンケート調査結果からは、ヴィラの設備や備品、清潔さに関しても高評価を得ていたことが分かる。

### （3）閉鎖と権利移譲

岡山国際交流ヴィラの宿泊者数は、全6軒が開設された年の翌1992年度に全施設でピークを迎え、吹屋1,268人、越畑798人、牛窓1,693人、八塔寺1,370人、建部1,338人、白石島1,708人と、計8,175人になった（図2）。その後は減少傾向となり、2002年度以降はピーク時の半分に落ち込んだが、八塔寺、建部、白石島の3ヴィラは減少幅が小さく、年間1,000人前後を維持していた。宿泊者数が最も少なかった「越畑ヴィラ」は、2005年3月の

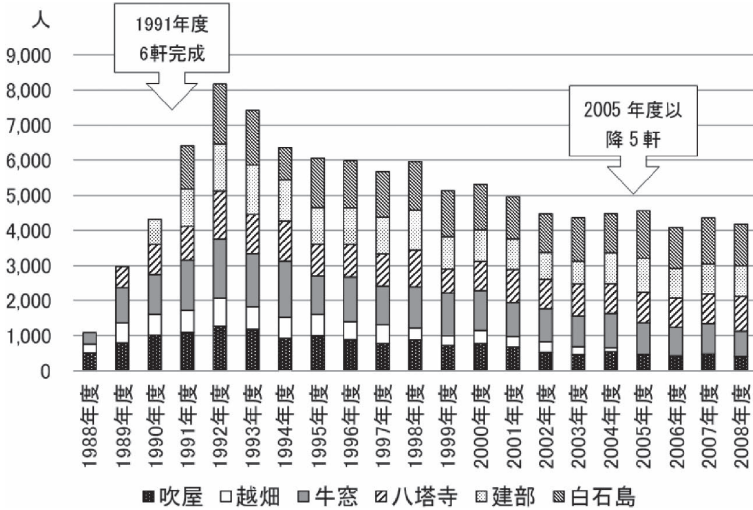
---

9) (財)岡山県国際交流協会は、ヴィラの運営と施設改善を目的として6軒の宿泊者に対してアンケート調査を実施していた。1999年7月から9月に実施された調査の回答者は、越畑を除く5か所である。回答数は176、うち日本人35、回答の割合は牛窓41%から建部2%と宿泊施設による偏りがある。

10) (財)岡山県国際交流会資料による。



図 2 岡山国際交流ヴィラ宿泊者数の推移 (1998~2008年度)



岡山県県民生活部国際課の資料より作成。

町村合併前に閉鎖した。「越畑ヴィラ」は、茅葺屋根の民家が点在する岡山県の「ふるさと村」の指定地区にあり、古民家でありながら洗濯機・乾燥機などの設備も完備していたが、利用者低迷の背景には、冬期に3か月間休館していたことと、アクセスの悪さがあった。ヴィラの立地は、津山駅からバスで1時間であったが、2002年にバス路線は廃止された。「越畑ヴィラ」は、公共の施設であっても、借家のため赤字経営が放置できず、管理体制の維持に問題があったことも閉鎖の要因である<sup>11)</sup>。

「岡山国際交流ヴィラグループ」は、全体の稼働率を上げることを目的として、2004年以降、「吹屋ヴィラ」と「建部ヴィラ」に日本人のみの宿泊も受け入れることにし、後に「牛窓ヴィラ」と「八塔寺ヴィラ」でも同様とした。しかし、宿泊者数の大幅な回復はみられず、岡山県は、2008年度を最後に各ヴィラの所有権を手放して立地する市町に権利を移譲することに

11) 越畑ヴィラについては、岡山県国際団体協議会、八塔寺ヴィラの管理人への聞き取りによる。



富川：岡山国際交流ヴィラによる外国人の地方旅行誘致と地域の受け入れ態勢  
した。「八塔寺ヴィラ」と「白石島ヴィラ」は、これにより備前市と笠岡市  
がそれぞれ経営を引き継いだ。しかし、「建部ヴィラ」と「吹屋ヴィラ」  
は、これを機に閉鎖した。利用者数の低迷による赤字経営が主な理由とさ  
れたが、前者は、加えて宿泊施設と併設の温泉施設の維持管理費の問題  
や、競合する近隣の宿泊施設への配慮もあり、2010年に建物が撤去され  
た。後者は、その後2015年に新たに民営のゲストハウスとして再開し  
た<sup>12)</sup>。また、「牛窓ヴィラ」は、私有地であったため、土地の所有企業が  
経営を引き継ぎ、現在は、建物の一部が宿泊施設として主に日本人のビジ  
ネス客や観光客に利用されている<sup>13)</sup>。

2019年4月現在、「岡山国際交流ヴィラグループ」として存続しているの  
は「八塔寺ヴィラ」と「白石島ヴィラ」であるが、前者は予約管理も引き  
続きグループの事務局が担っている。

#### (4) 八塔寺ヴィラと白石島ヴィラ

##### 1) 八塔寺ヴィラの概要と実態

「八塔寺ヴィラ」は、備前市吉永町加賀美の標高400mに位置する集落  
にあり、JR山陽本線の吉永駅から1日6本運行するバスで30分程度であ  
る。集落の歴史は古く、奈良時代に照鏡山八塔寺が開基されたことに始ま  
り、山岳仏教の地として盛時には72もの僧坊があったとされる。社寺と茅  
葺屋根の民家が点在する農村風景が広がる一帯は、映画やテレビドラマな  
どのロケ地としても知られる。1974年に岡山県の「ふるさと村」指定地区  
として明治期初期に造られた5kmの八十八か所巡りなど歴史や文化遺産  
を巡る遊歩道や休憩所が整備されている。「ふるさと村」には体験型の農園  
や農産物直売所、昼食を提供する食堂が数軒あり、宿泊施設も国際交流  
ヴィラの他、「八塔寺山荘」とコテージ、キャンプ場が整備されている。周

---

12) 以上、岡山県国際団体協議会、八塔寺ヴィラの管理人への聞き取り、及び岡山市の資料による。

13) 牛窓国際交流ヴィラの管理人への聞き取りによる。

辺観光地には、八塔寺から南へ約 20 km 地点に特別史跡の旧閑谷学校があり、西方の山を越えた約 10 km 地点に岡山国際サーキットがある。「八塔寺山荘」は、「八塔寺ヴィラ」と同様の施設で、茅葺屋根の農家を移築・改造した建物に囲炉裏や自炊設備のある公共の宿泊施設である。2012年頃までは、寺の住職が経営する民宿もあった。これは100人程度収容可能な民宿で巡礼者の他、サーキット客などの団体も利用し、精進料理の食事をする日帰り客も多かった。この民宿が閉鎖したこともあり、「八塔寺山荘」と「八塔寺ヴィラ」に宿泊するサーキットの客が増えた<sup>14)</sup>。

「八塔寺ヴィラ」の建物は、もともと1989年5月に公開された映画『黒い雨』の撮影のために移築・改造された茅葺屋根の農家家屋である。映画撮影の役目を終えた後、当時の所有者であった吉永町が台所やトイレ等を改修し、1989年4月から国際交流ヴィラとして利用するようになった<sup>15)</sup>。築140年を超えるこの建物には、土間や囲炉裏、五右衛門風呂などが備わっている。縁側からは農村風景が臨め、敷地内には小庭があり、芝生が植えられ、ウッドデッキがある。5間ある部屋は鍵のない襖で仕切られているため、グループであれば貸切りでの利用が好まれる。室内にはタオルも浴衣も備えられ、花も飾られている。しかし、壁や柱の歪みなど老朽化した建物での滞在は、気候によっては快適性がかなり劣る。

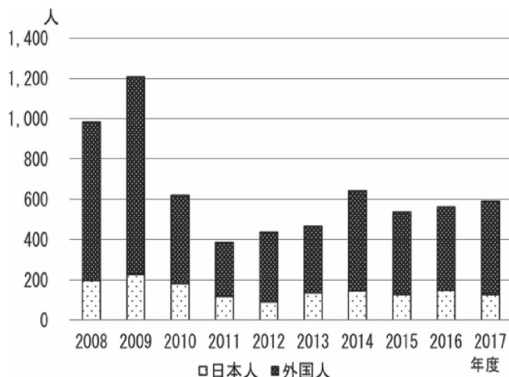
「八塔寺ヴィラ」は、2009年度より備前市に譲渡されたが、運営は引き続き備前市（2005年の合併前までは吉永町）が担っており、管理人も開設当初から替わっていない。近年は建物の改修が進められ、茅葺屋根の葺き替えも2016年10月から約2か月間かけて行われた。宿泊は日本人のみでも可能であるが、「八塔寺ヴィラ」は、「岡山国際交流ヴィラ」設立趣旨のとおり、県や市主催の国際交流のイベント、地域の会議やイベントなどにも利用されている。これによって、かつて盛んだった地域の餅つきイベントも

---

14) 以上、かつての民宿と客層については、八塔寺ヴィラの管理人及び地域住民への聞き取りによる。

15) 八塔寺ヴィラの管理人への聞き取りによる。

図3 日本人・外国人別八塔寺ヴィラ宿泊者数の推移（2008－2017年度）



備前市の資料により作成。

近年復活し、毎年開催されるようになった<sup>16)</sup>。「八塔寺ヴィラ」の宿泊者数2008年度から2017年度までの外国人と日本人別にみた宿泊者数の推移は、図3のとおりである。各年度の宿泊者数は、建物の修繕や悪天候などによる休館の影響を受けるが、宿泊者数全体の推移は、外国人による影響が大きい。備前市の経営となった2009年度は延べ1,208人であったが、2017年度は581人と半減した。2009年度の伸びの理由は、客の「岡山国際交流ヴィラ」選択肢が5軒から2軒になったことにより集中したためであり、2010年度の減少は、円高の中での宿泊料金の値上げによるとみられる<sup>17)</sup>。そして、2011年3月の東日本大震災の直後、訪日外国人が激減したが、特に多くの日本在住外国人が出国したことでリピーター離れとなった。それでも設立以来、年末年始に滞在する客が途切れることはなかった中で、2018年度は初めて宿泊客がいなかったため、今後の低迷が懸念されている。宿泊者数低迷の要因として、建物の老朽化と、インターネットで容易

16) 以上、2009年以降の八塔寺ヴィラについて、八塔寺ヴィラの管理人への聞き取り、及び Hattoji- Villa <https://www.facebook.com/> 2019.11.2による。

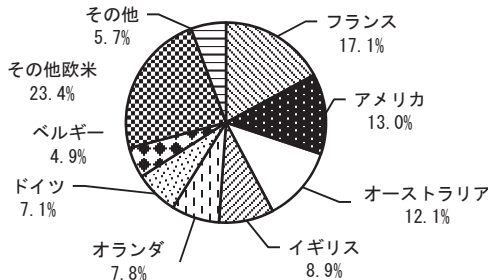
17) 料金改定により大人3,600円、貸切り8人まで25,000円、13人まで40,000円となった。

に検索・予約ができる自炊型や低廉な宿泊施設が全国に広がっていることが推察される。しかし、ヴィラの利用客数は春から秋まで比較的安定しており、課題は冬季の稼働率を上げることである。2008年から2017年の10年間を平均すると、最も多い8月が平均84人、次に4月の平均78人であり、この2か月は稼働日数が多く、貸切り利用は特に予約が困難な状況にある。

2017年度から過去5年間のヴィラの延べ宿泊数2,902泊に占める外国人の割合は76.1%の2,207泊であり、その内訳を国籍別に表したのが図4である。フランス、アメリカ、オーストラリアなど、その他欧米と合わせて全体の94.3%を欧米系が占める。これと同時期の岡山県全体の外国人延べ宿泊数は918,890泊であり、全国の傾向と同様、台湾、中国、香港などのアジアからが多く、欧米系が占める割合は全体の僅か18.3%であるため、ヴィラのような宿泊形態を志向する外国人が欧米系に強いことが再確認できる。

「八塔寺ヴィラ」の外国人宿泊者の半分は日本在住のリピーターと見られるが、訪日旅行者も2、3連泊する者が多い。周辺には夕食を提供する食堂も食材を扱う店もなく、滞在中の食材調達には吉永駅近くまで往復する必要がある。彼らの滞在中の行動は、周辺地でのハイキング、屋内外でゆっくり過ごす、などであり、子供連れの客は夏に川遊びをする。自家用車やレンタカーで来る客はドライブもする。1泊のみの滞在者は、日本古来の生活体験を目的とする者も多く、ベルギーから「八塔寺ヴィラ」が組

図4 八塔寺ヴィラの国籍別外国人宿泊数の割合（2013～2017年度）



備前市資料より作成。

富川：岡山国際交流ヴィラによる外国人の地方旅行誘致と地域の受け入れ態勢  
み込まれたツアーの参加客もいる。彼らは10年以上前から毎年夏に2回、  
12人程が貸切りで滞在しているが、ヴィラの貸切りができない場合は代わ  
りに「八塔寺山荘」を利用する。彼らは夏でも火を熾して囲炉裏を体験す  
る。一方で日本人客は、近隣観光のために1泊する他、学生などが研修  
で、またサーキットの客が貸切りで泊まることが多い。日本人にとって  
は、安価に泊まれることがこのヴィラを選ぶ理由の一つと考えられてい  
る<sup>18)</sup>。

## 2) 白石島ヴィラの概要と実態

笠岡諸島にある白石島は、周囲約10kmで面積2.91km<sup>2</sup>、人口521人  
(2016年10月現在)の島である(笠岡市, 2018)。白石島へは、山陽線JR笠  
岡駅から徒歩で笠岡港、港からは普通船、高速艇、フェリーがある。普通  
船利用で運賃が650円で片道35分、「白石島ヴィラ」へは港から徒歩10分  
のため、Japan Rail Passを利用する旅行者が行き易い場所である。白石島は、  
江戸時代に西国大名の舟泊りの地として栄えたが、島の景観美は平安時代  
から詠われ、現在は国指定の名勝となっている。島の西海岸は岡山県の三  
大海水浴場の1つとされ、夏に海水浴客で賑わい、マリンスポーツも楽し  
める。お盆に行なわれる国指定重要無形民俗文化財の白石踊も観光客を集  
めている。その他、通年型の観光には、釣り、弘法大師ゆかりの開龍寺と  
仏舎利塔観光、江戸時代に始まる八十八か所巡り、島内7つの峠を歩ける  
ハイキングがある。島の複数の山頂からは奇岩と海が望める。

白石島の観光発展は、江戸時代の巡礼に始まるが、開龍寺がその中心で  
あった。食事付きで巡礼者の宿として利用されていた寺の通夜堂が1864年  
に再建された記録がある。第二次世界大戦後は、ミニ霊場巡りのブームに  
乗った2泊3日の客や、林間学校で3泊から6泊するグループ、教職員組  
合などの団体が寺に泊まるようになった。外国人旅行者も、第二次世界大

---

18) 以上、八塔寺ヴィラ滞在者の行動について、ヴィラの管理人への聞き取り、備  
前市の統計資料等に基づく。

戦後、フランスやドイツ、オーストリアなどから、島の自然資源に惹かれてバックパッカーがやってきた。昭和30年代に日本でもバックパッカーの海外旅行がブームになると、これに刺激を受けた開籠寺の住職がタイに修行に行き、これが縁で島に仏舎利塔が建立されることになった。仏舎利塔の建立は、当時、大騒動となって多くの人々を引き寄せ、またタイからの訪問客も多かった。このような経緯から、国際交流ヴィラが設置される以前から、島の住民は言葉の通じない外国人との交流に慣れていとされる<sup>19)</sup>。

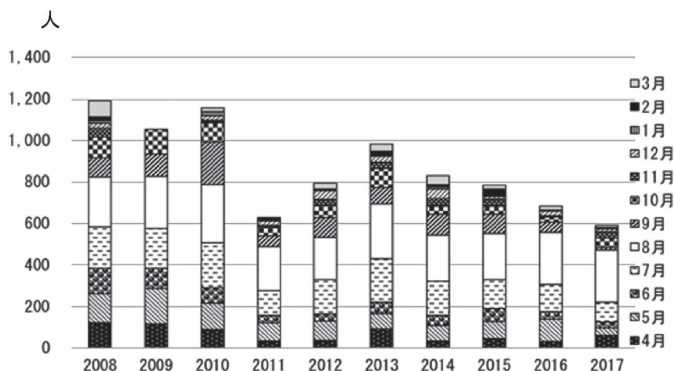
1960年代後半に日本が海水浴ブームとなると、白石島の観光も夏の海水浴が中心となる。海水浴客の6割が京阪神からであり、2泊以上の滞在者が全体の2割を占めた。1972年は、島の人口1,545人に対し、観光客数は82,351人であった。白石島観光協会は、1970年代から海水浴観光から通年型観光を目指す取り組みを始めたが、このような観光地化に対して反対する住民が多かったとされる（関西学院大学地理学研究会，1974）。ところが、観光客数は2003年に29,500人，2011年に12,000人，そして2016年は11,500人と激減し，宿泊者数は，2003年4,000人，2011年2,600人，2016年1,500人と，宿泊率はさらに低下していった（笠岡市，2009，2014，2018）。1970年代には島に旅館と民宿が15軒あったが（北村，2014），2019年3月現在，島の宿泊施設は「白石島ヴィラ」以外に旅館3軒，民宿1軒，ゲストハウス1軒である。旅館や民宿の客は現在でも海水浴客が多くを占め，学生やマリンスポーツ参加者のグループ客も多い。

「白石島ヴィラ」は、海水浴場東側の見晴らしの良い高台にあり、建物は、瓦葺きの木造平屋でテラスや屋根などが瀬戸内海の島と波をイメージしたデザインである。客室は、ツイン4部屋，3人定員の和室1部屋が屋外廊下に面して並んでいる。共有スペースのダイニングとリビング，テラスからも海が臨める。2019年3月現在の宿泊料金は，1室2名利用で大人

---

19) 開籠寺については、住職及び地域住民への聞き取りによる。

図5 白石島ヴィラの月別宿泊者数の推移（2008－2017年度）



笠岡市の資料より作成。

一人3,500円，2泊目以降は500円引きなどとなっている。ヴィラの近くには，小さなスーパーがあり，海岸沿いの食堂で夕食も取れる。

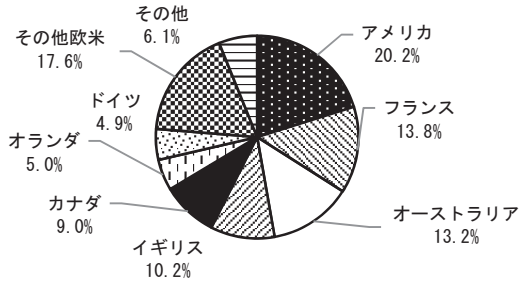
「白石島ヴィラ」は，6軒の国際交流ヴィラの中で宿泊者が最も多いヴィラであった（図2）<sup>20</sup>。「白石島ヴィラ」は，2010年度から笠岡市の経営となって以降も他の国際交流ヴィラと異なり，日本人のみの客は受け入れてこなかった。これは，島内に複数ある民営の宿泊施設に配慮していたことが主な理由であるが，一時期日本人のみも受け付けていた際に日本人の若者が問題を起こしたためでもある<sup>21</sup>。2008年度から2017年度の延べ宿泊者数の推移は，図5のとおりである。2008年度1,191人から翌2009年度は減少したが，これは，11月から大規模修繕工事のために5か月間休館したためである。2011年度は，東日本大震災による影響が顕著に表れている。月別に見ると，8月の宿泊者数が最も多く，毎年200人を超えている。2017年度は宿泊者591人中に7，8月の宿泊者数が349人と，全体の59%占めた。このように，開設当初から7，8月は満室に近い状況が続いており，夏季以

20) 1994年度，2004年度，2005年度は，それぞれ，湯水による1か月以上の閉館，台風，大雪による影響がある。

21) 白石ヴィラの元管理人，及び地域住民への聞き取りによる。



図 6 白石島ヴィラの国籍別外国人宿泊者数の割合（2013—2017年度）



笠岡市の資料より作成。

外の宿泊者数の変動が年間の総数に大きく影響を及ぼしている。

2011年度から2017年度の過去5年間の延べ宿泊数3,850泊に占める外国人の割合は78.0%の2,992泊であり、その内訳を国籍別に表したのが図6である。この割合は、図4の八塔寺ヴィラとほぼ同様であり、アメリカ、フランス、オーストラリアなど、その他欧米と合わせて全体の93.9%を欧米系が占める。これらのうち半数を日本在住のリピーターが占め、特に兵庫県からの客が多いとみられる<sup>22)</sup>。

「白石島ヴィラ」は島の観光振興に大きな役割を担っている。収容人数僅か11人のヴィラは、延べ宿泊者数660人（2016年）と、島全体の宿泊者数1,500人の44%を占める（笠岡市，2018）。また、ヴィラに宿泊したことをきっかけに島に移住した外国人もいる。彼女は、やはり外国人である夫と共に島で夏限定のビーチバーを経営し、また、英字新聞のライターとして島の情報を発信しながら、滞在客との交流促進にもインバウンド誘致にも貢献している。「白石島ヴィラ」は、2018年4月に運営・管理体制が変わり、Booking.comやHPによる宿泊予約、また日本人のみの客の受け入れなど、改善が進んでおり、今後の効果が期待される。

22) 白石ヴィラの元管理人への聞き取りによる。

### 3. 宿泊者の滞在志向

国際交流ヴィラにおける滞在中の評価を確認するため、宿泊者による口コミ評価を参考にする。「八塔寺ヴィラ」については、世界最大の旅行口コミサイトであるトリップアドバイザーを基に、また「白石島ヴィラ」については、これに加えてBooking.comを基に形態素解析をした。2019年4月4日に両ヴィラに対する外国語表記の口コミを収集したが、英語以外のヨーロッパ言語の表記もあったため、翻訳して英語表記に統一した。トリップアドバイザーでは、「八塔寺国際交流ヴィラ」に対する外国語の口コミ件数が16件（英語15件、フランス語1件）である。彼らの総合評価は5点満点中4.7である。この内訳にある評価項目で特に高いのは、「清潔感」と「価格」である。この16件に加えて、「白石島国際交流ヴィラ」に対する口コミの中に、「八塔寺ヴィラ」について記載があったため、これを加えて全17件の口コミから名詞・形容詞・副詞の形態素を抽出し、10回以上の頻出語を図7に表した。頻出語のhouseに関しては、家屋についての説明もある古民家であることの驚きやそこに泊まれる感動の表現が目立つ。Japaneseに関しては、日本らしい、本物の日本の田舎や家屋である、管理人とは日本語で、などの記述が見られる。placeに関しては、ヴィラの立地や周辺の景色を説明している。foodに関しては、食材調達や調理施設についての説明である。その他の頻出語についても、総合評価に表れていると

図7 八塔寺ヴィラ口コミの頻出語

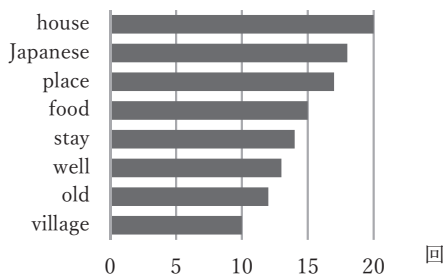
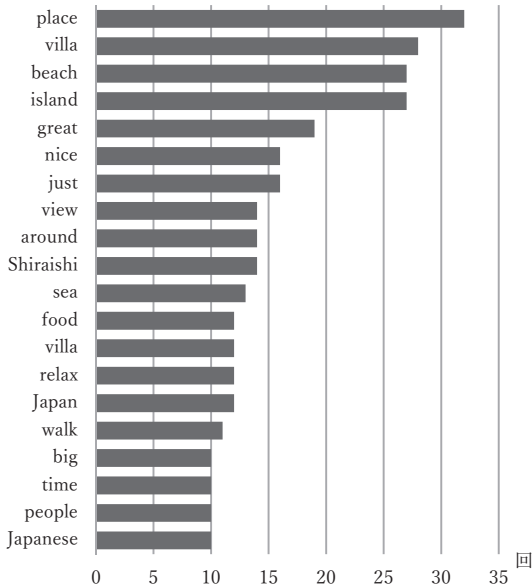


図 8 白石島ヴィラロコミの頻出語



おりポジティブに表現されている。その一方で、食材を調達できる所がない、一人では寂しすぎる、管理人と言葉が通じない、寒い、等の記述があり、これらがネガティブ評価と捉えられるが、そのための助言や小さな問題に過ぎないとする記述もある。したがって、日本らしい田舎の風景が素晴らしいこと、静かで落ち着いた滞在ができること、伝統的な家屋での滞在が経験できることが「八塔寺ヴィラ」が高く評価されている理由である。次に、トリップアドバイザーの「白石島国際交流ヴィラ」に対する口コミは24件（英語20件、フランス語2件、オランダ語1件、ドイツ語1件）であり、これらの総合評価は5点満点中4.7である。Booking.comには5件（英語3件、ドイツ語1件、スウェーデン語1件）の口コミがあり、これらの総合評価は10点満点中8.4である。総合評価の内訳の項目では、両サイトとも最も高い評価が「立地」である。両サイトの全29件から名詞・形容詞・副詞の形態素を抽出し、10回以上の頻出語を図8に表した。頻出語の

富川：岡山国際交流ヴィラによる外国人の地方旅行誘致と地域の受け入れ態勢 place は、amazing や perfect などの形容詞とともに用いられており、villa から望む beach の景色に感動する記述が多い。これは、元管理人への聞き取りでも明らかにされたが、ヴィラの中に入った途端に海の眺めを目にした客が歓声を上げるとのことである。room と around に関しては、ヴィラ内外の設備や施設、周辺のアクティビティに関する記述が多い。このほか、一時期管理人もしていたビーチバーを営む夫妻や、その他の管理人<sup>23)</sup>、地域住民が親切であるなど、地域の人々に関する記述が複数見られ、住民との交流を楽しんでいることが示される。一方でネガティブな記述は3件のみであり、海の景色に工場が見えることと、管理人が英語を解さないこと、管理人不在の不便さを指摘している。

1999年に実施された国際交流ヴィラに対するアンケート調査、及び近年

表2 岡山国際交流ヴィラの利用者と評価理由

時期		1999年	2010年代	
調査対象ヴィラ		全6軒	八塔寺	白石島
外国人の割合		外国人限定	76%	78%
外国人の特徴	日本在住	69%	半数	半数
	国籍	欧米系英語圏80%以上	欧米系94%	欧米系94%
リピーター		47%	多い	多い
高評価の理由		立地（海に近い、静か）	古民家	立地（アクセス、ビーチ）
		安い	本物の日本	滞在環境（施設、眺め、設備）
		周辺観光	立地（日本の田舎、静か）	周辺観光
		滞在環境（設備、備品、清潔さ）	滞在環境（設備、清潔さ）	住民との交流

23) 管理人は、開設当時から現在まで複数回替わっており、20年間ほど英語を解さない日本人女性が務めていたが、近年は英語を話す外国人が務めている。

の 2 軒の国際交流ヴィラの状況と口コミをまとめたものが表 2 である。国際交流ヴィラの利用者は、特に欧米系の外国人が多く、中でも日本在住のリピーターが多いことは 1999 年からの傾向である。ヴィラへの高い評価の要因は、静かで景観が良い立地と、周辺に観光資源があることである。また、白石島のようにアクセスの利便性が立地の評価を更に高める要因となる。宿泊施設は、ハード・ソフト面で快適な滞在ができることが高評価となる。いわゆるバブル経済期には、宿泊者にとって、安いことが魅力であったが、近年は、価格やアクセス以上に、本物の日本体験や、住民との交流を重視する傾向にある。

#### 4. お わ り に

地域における国際交流の推進を目的して設立された「岡山国際交流ヴィラ」は、公共の施設であることを活かした広報活動や料金設定、また交流事業の開催によって、開設以来多くの外国人客を誘致し、その目的を果たしてきた。しかし、当初 6 軒あったヴィラは、赤字経営と宿泊客の減少が問題視され 2 軒に縮小された。これら「八塔寺ヴィラ」と「白石島ヴィラ」に共通するのは、需要が高く、地域の活性化に重要な役割を担っていることである。

従来の研究では、外国人による地方滞在は、地域の文化や自然に触れることを求める欧米系の旅行者にニーズが高く、彼らは住民との交流も望んでいるが、農家泊では会話への不安があるとされていた。本研究の対象とした「岡山国際交流ヴィラ」では、外国人の宿泊者は圧倒的に欧米系が占め、日本在住者のリピーターも多い。滞在中は、静かに過ごす、散策やハイキングをする、近隣観光地を訪れる、などの行動が検証できた。一方で、滞在中に住民との交流を楽しむ宿泊者が多く、そこには会話への不安は確認されなかった。ヴィラでの滞在中に最も重視されているのは自然景観の良い立地であり、連泊滞在のための設備、清潔さ、本物の日本体験も魅力となっている。その他、本研究を踏まえて、地方における外国人向け宿

富川：岡山国際交流ヴィラによる外国人の地方旅行誘致と地域の受け入れ態勢  
泊施設は、景観の良い立地で周辺地域でのアクティビティが可能なところ、  
また、アクセスは不便であっても公共の交通機関がある方が好条件と言え  
る。また、地域内で多様なニーズに応える複数の宿泊施設がある方が望ま  
しい。例えば、外国人の農家滞在を推進する地域では、受入れ農家の負担  
軽減に繋がる自炊型や一棟貸しなど、多様な宿泊形態を提供することで多  
様な客のニーズに応えることに繋がる。

外国人向け宿泊施設による地域への効果は、観光振興と交流促進であ  
る。このためのイベントなども交流機会の創出になるが、住民による観光  
客歓迎ムードがあれば、客の満足度が高まり、リピーターの増加や口コミ  
による誘客に繋がる。したがって、地域の受け入れ態勢づくりには、この  
ような宿泊施設の役割を地域住民が認識し、外国人客を受容することが重  
要である。また、公共の施設であっても、ビジネスの視点からのマーケ  
ティングも不可欠となる。

謝辞：本研究では、国際交流ヴィラに関わる多くの方々にお世話になりました。こ  
こに心より感謝の意を表します。

#### 【参考文献・資料】

- 石川美澄（2012）「地域社会における小規模宿泊施設の役割に関する一考察：長野市  
善光寺門前のゲストハウスのイベントを事例として」、『生活学会論叢』, 20, pp.  
95-102
- 笠岡市（1990）『広報かさおか』, p. 3
- 笠岡市（2009）『統計かさおか平成20年版』, p. 55
- 笠岡市（2014）『統計かさおか平成25年版』, p. 82
- 笠岡市（2018）『統計かさおか平成29年版』, pp. 4-21, p. 82
- 観光庁（2016）『明日の日本を支える観光ビジョン——世界が訪れたいくなる日本  
へ——』, pp. 6-14
- 関西学院大学地理学研究会（1974）地理研瀬戸内調査シリーズ8『白石・馬渡』, pp.  
36-155
- 北村光二（2014）「島に暮らす人びとが大切にしていること——岡山県白石島の事例  
から——」, 『文化共生学研究』, 岡山大学大学院社会文化科学研究科, 第13号,  
pp. 43-60

- 蔵本祐大・十代田朗・津々見崇 (2018) 「わが国の国際グリーン・ツーリズムの受入態勢に関する研究」, 『観光研究』, Vol. 30, No. 1, pp. 19-28
- 綜研情報工芸 (2016) 『訪日外国人旅行者の農林漁業体験民宿への誘致促進に関する調査委託事業調査報告書』, pp. 66-78
- 富川久美子 (2010) 「農村地域における公的宿泊施設の役割と観光効果」, 『修道商学』, 50巻(2), pp. 151-171
- 日本政府観光局 (2016) 『訪日外国人の消費動向とニーズについて』, pp. 45-51
- Frommer's Japan* (2009), Wiley, p. 247
- Dwyer, Larry and Forsyth, Peter (1993), Assessing the benefits and cost of inbound tourism, *Annals of Tourism Research*, Vo. 20, pp. 751-768
- Japan* (2009), Lonely Planet, p. 455, p. 475
- Shi, Hui (2012), The efficiency of government promotion of inbound tourism: The case of Australia, *Economic Modelling*, 29, pp. 2711-2718



## Summary

# Attraction and Acceptance of Foreign Tourists to Rural Regions in the Case of Okayama International Villa Group

Kumiko Tomikawa

Promoting inbound tourism is a common issue for local governments. This study clarified how Okayama International Villas attracted a number of foreigners to the sparsely populated areas. The villas were promoted via public funding and media. The lodgers are delighted with the scenic locations of the villas, and are satisfied with meeting local people during their stay. Some effects of an accommodation on the region are tourism development and exchange activity. Having a receptive attitude of residents toward foreign tourists is important to promote inbound tourism in rural area.